



第3回コンパクトなまちづくり大賞  
(個別事業部門 都市みらい推進機構理事長賞) 受賞

再構築 観光・交流 人口定着

こまつちゅうおう

# 小松中央地区 (三期)

(石川県小松市)

- 計 画 期 間 平成 27 年度～令和元年度
- 面 積 150 h a
- 交付対象事業費 624 百万円
- 市人口 106,544 人

**ポイント** 都心にふさわしい魅力と快適性に恵まれた歴史・文化の香り高い躍動感あふれるまちづくり (こまつ鼻頂が集うまち)

**地区概要** 無電柱化整備による歴史文化資産の活用、都市機能立地支援事業による民間事業者が主体となった複合施設の整備により、まちなかの賑わいを取り戻すとともに、魅力ある都市機能の創出を図る。

**目 標** 歴史的な地域資源と新たな文化施設による歴史文化回廊の創出、人々が集い賑わう魅力的な都市機能の集積化、魅力ある地域づくりを目指す。

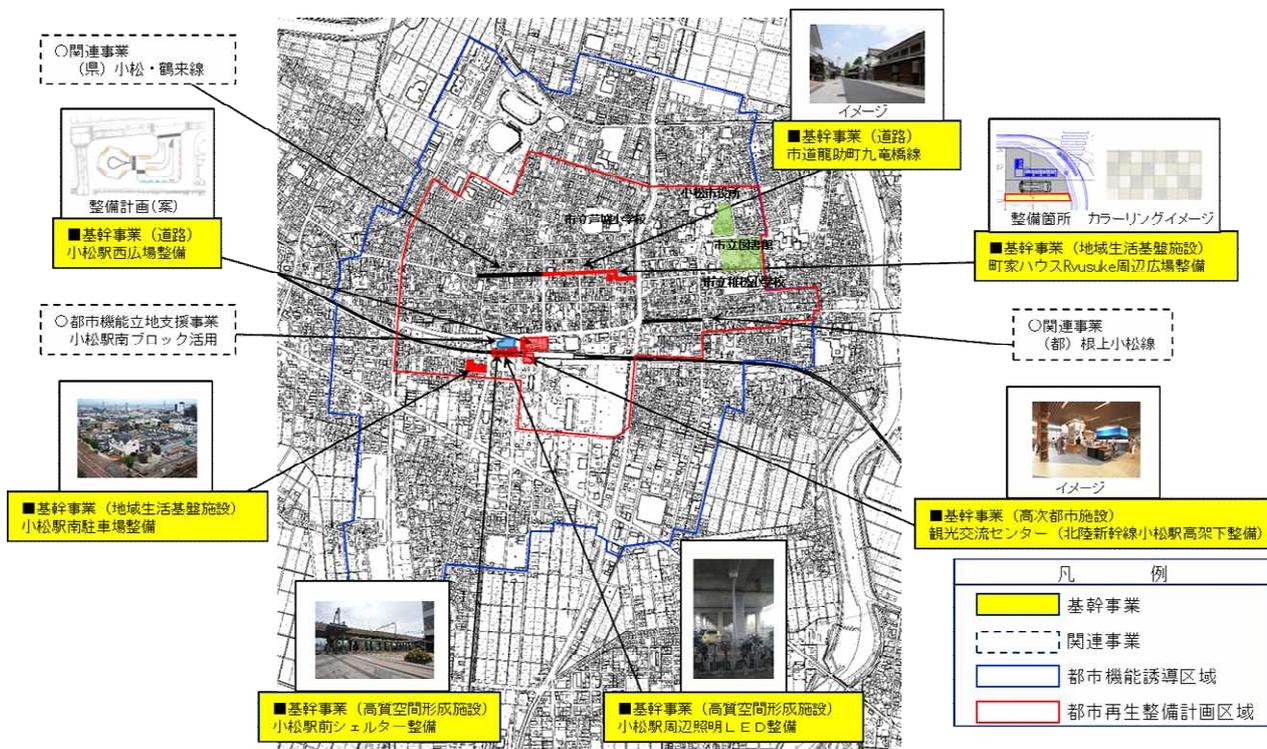
## 指 標

交流機会の拡大、都市機能の充実及びまちなか居住の促進を図るための指標として、それぞれ、駅周辺施設の利用者数、小松駅利用者数、中央地域の人口を設定した。

駅周辺施設の利用者数	473,700 人/年 (H25)	→	488,574 人/年 (R1)
小松駅利用者数	590,000 人/年 (H25)	→	695,229 人/年 (R1)
中央地域の人口	18,201 人 (H25)	→	17,991 人 (R1)
空き家・空き店舗減少	29 件 (H27)	→	15 件 (R1)

## 事業内容

基幹事業 (624 百万円) → 道路 (無電柱化、L=460m) (広場、A=7,500 m<sup>2</sup>)、  
駐車場 (101 台、A=2,920 m<sup>2</sup>)、自転車駐車場 (A=11 m<sup>2</sup>)、  
照明施設、シェルター、観光交流センター



## 地区の現況と課題

小松中央地区は、小松城の城下町（宿場町）として栄えた、小松市の中心市街地である。小松空港を有する南加賀地域の中心として、歴史的にも市民の意識の中でも「まちの顔」であったが、中心市街地の人口の減少、商店数の減少により、賑わいが失われている。それらに伴い、当地区内にある歴史文化施設の利用者が減少し、駅周辺の市街地の衰退も著しくなっており、また、様々な来訪者が集う交流施設や空間が少ない状況にある。



小松市中心市街地の状況

## 計画策定プロセス

### 龍助・西町北国街道まちなみ協議会

かつての北国街道の賑わいを取り戻すための組織として「龍助・西町北国街道まちなみ協議会」を設置して、まちの活性化や沿道景観の保存・形成、無電柱化、道路修景などについて検討を行った。

#### これまでの経緯

- ・平成 26 年 2 月 協議会設立
- ・平成 26～28 年度 「まちづくり部会」、「にぎわい部会」、「みちづくり部会」の各部会を約 10 回開催  
→まちづくり協定、賑わい対策、道路景観整備等を検討  
その他、先進地視察、イベントの実施



龍助・西町北国街道まちなみ協議会の様子

### 旧大和小松店跡地活用検討会

小松市が将来にわたって持続可能な都市として成長していくため、南加賀地域のターミナル機能（地域の拠点）の形成を図ることを基本方針とした跡地活用を検討する組織として「旧大和小松店跡地活用検討会」を設置して、土地利用の基本コンセプト、跡地に求められる都市機能などについて検討を行った。

#### これまでの経緯

- ・平成 22 年 6 月 大和小松店の閉鎖
- ・平成 25 年 2 月 第 1 回検討会の開催  
(平成 26 年 11 月まで計 7 回実施)  
→土地利用のコンセプト、跡地の活用、スケジュール等を協議
- ・平成 26 年 2 月 市民参加型フォーラムの実施
- ・平成 27 年 2 月 基本構想をまとめ、パブリックコメントを実施
- ・平成 27 年 2 月 周辺住民への説明
- ・平成 27 年 4～7 月 専門業者及び専門職へ意見聴衆
- ・平成 27 年 5 月 市内の高校生へアンケート実施
- ・平成 27 年 9 月 「合同会社青山ライフプロモーション」設立
- ・平成 28 年 6 月 建築工事着手
- ・平成 29 年 10 月 建築工事完了



旧大和小松店跡地活用検討会の様子



こまつアズスクエア 建築工事完了